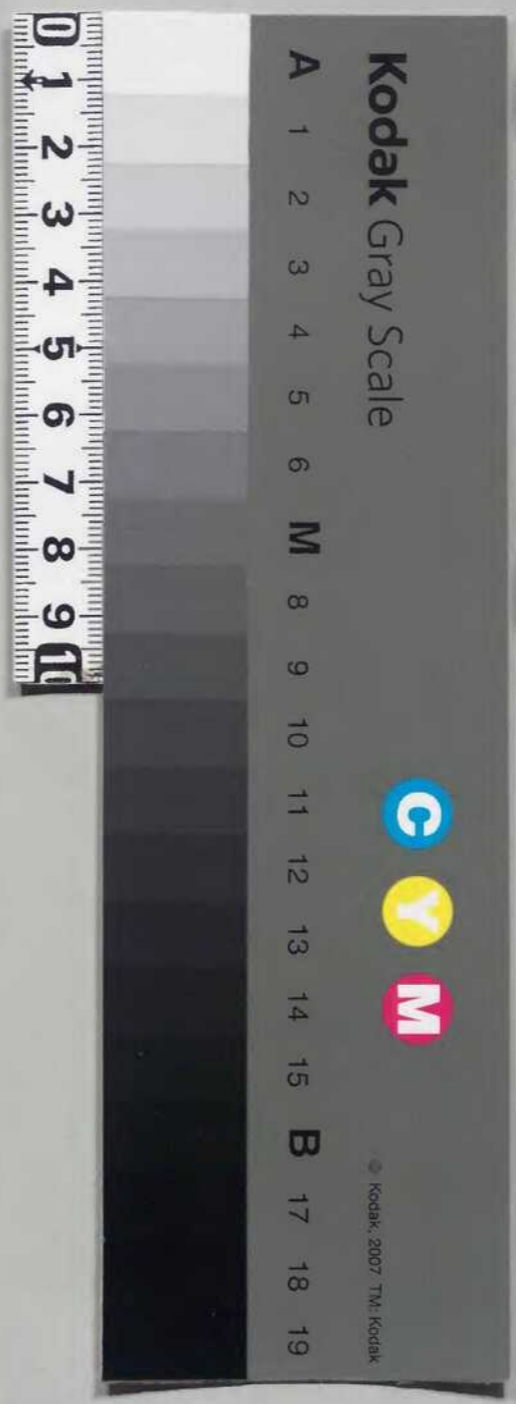


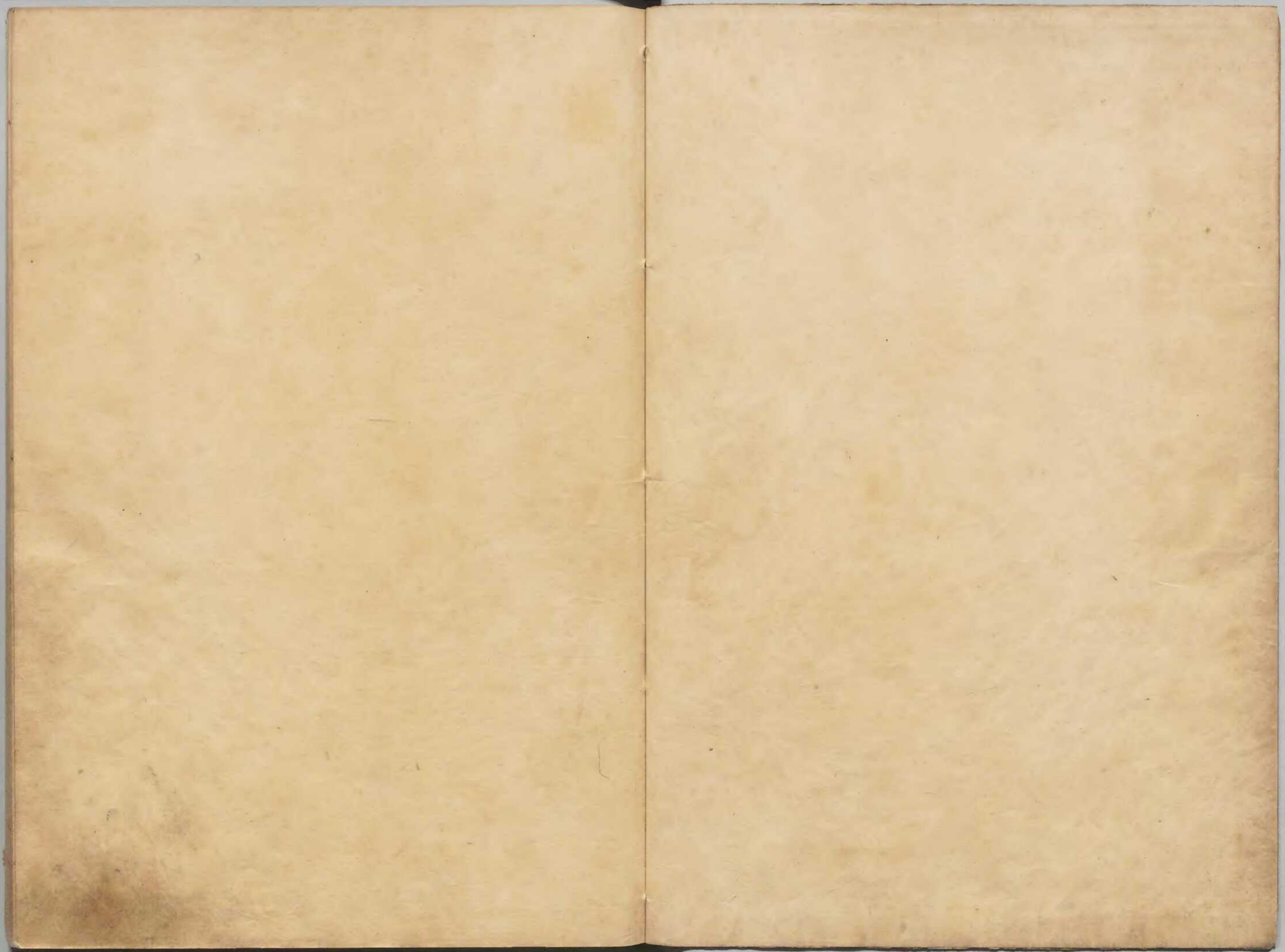
寛永諸家譜

藤原氏戊二冊之内二
道兼流

101

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186 (101)	
函號	76	1





大久保

宇津野

墨本

小幡

田中

羽墨

寛永諸家系圖傳

藤原氏

戊二 小家

道兼流

大久保

栗田白道道十代

景總

泰總が嫡男

宇都宮尾張守

近江守

下野守

淺草文庫

貞總 まこと
泰宗 やすむね

系總けいすけが五男ごなん
法名蓮惠りやうもん

常陸介ひらのすけ

左衛門尉さえもん

時總 ときすけ

三河守みかわのし

左衛門尉

法名蓮意りやうもん

泰藤 やすふじ

左近右衛門監さねのりやえん

法名蓮常りやうもん

冬列ふゆり和向わむか妙玉みやく与乃よの前まへ一ひと便べんと
家紋いへのもん 丸巴まるいへ 鳥居とりかとくへんとくへんとす

常意 とこい

道意 みちい

宇都文つのだとわ
宇津うづと称なづす

道昌

嫡男辰翁とつて松平よとむき
信光よりつてつて

常若

八郎右衛門尉 童右辰若
信光主つてつて

忠子

三郎右衛門尉 信右覺永

忠茂

左衛門五郎
天文十六年よ死す
信右源秀

忠俊

新八郎 五郎右衛門尉

宇津とあり〜久保と称す

清康君 廣忠郷下〜

享祿二年 清康君冬列沖油下

〜牧野傳次傳苑と合戦の事

味方先陣利をう〜

款共〜忠後これとつ〜

叔父内膳正伝定〜

〜款放走す〜

吉田の城と攻めす

又四年 廣忠郷勢列〜

傳す〜叔父伝定〜

諸士みな〜 廣忠郷と三列

小入〜忠後〜謀略〜

〜忠後〜七枚〜

詞と書〜忠後

家〜

一門子孫に無間獄^{いんげん}に下り給ふ
とて廣忠郷に是濟^{いそぎ}し^しに
とて海つらぬ^{うみつらぬ}し^しすれ^すに林友^{はやと}舟
八玉^{やぐよ}と六郎^{むろ}成濃^{なる}又右^{みぎ}郎^{らう}大原^{おほはら}氏^{うぢ}と右^{みぎ}馬^ま
とひ^とう^うふ^ふ相^あら^らむ^むり^りく^く同^{どう}六^{ろく}年^{ねん}
廣忠郷^{くわうちゅう}と是濟^{いそぎ}し^しに海^{うみ}に
後^{のち}助^{すけ}さ^さひ^ひし^し忠^{ちゆう}後^ご等^{らう}五人^{ごにん}下^{くだ}り
舟^{ふね}感^{かん}状^{じやう}を^をび^びし^し船^{ふね}地^ぢと^と海^{うみ}に
り^りら^ら又^{また}百^{ひやく}貫^{くわん}の^の百^{ひやく}貫^{くわん}と忠^{ちゆう}後^ご下^{くだ}り^り海^{うみ}に

同九年^{どうくわんねん}冬^{ふゆ}列^{れつ}渡^{わたり}乃^の一^{いつ}戦^{せん}し^しとひ^とく
味^{あじ}方^{かた}改^{かへ}軍^{ぐん}の^のと^と忠^{ちゆう}後^ご等^{らう}と^と境^{さかい}乃^の柳^{やなぎ}
院^{いん}下^{くだ}り^り家^{いへ}の^のと^と上^{かみ}村^{むら}新^{あらた}六^{ろく}も^も又^{また}と^とも
下^{くだ}り^りし^しき^きく^くり^りく^くあ^あれ^れを^を支^さあ^あれ^れし^し
と^とて^て款^{くわん}軍^{ぐん}す^すこ^こし^し事^{こと}と^と地^ぢと^とて
敗^{くわい}少^{せう}と^と
同十四年^{どうじゅうしにねん}松^{しょう}平^{へい}義^ぎ人^{にん}佐^さ位^い孝^{こう}の^の大^{だい}寺^{てい}色^{しき}
よ^よお^お張^{ちやう}乃^のと^と味^{あじ}方^{かた}の^の軍^{ぐん}共^{いっしょ}志^しを^をく^く
彼^か小^{せう}可^か忠^{ちゆう}後^ご石^{いし}川^{がわ}新^{あらた}九^く郎^{らう}と^とも^も

廣忠郷の沖前よ作一石川安藤守
とまろくく云と一くいしく味方乃
軍勢にかりといへども款兵とやう
かゝ 廣忠郷のたままじくこら
しとこのく一勝利とゆん事一を
とく一汝等あ人一あやせ也
あ人命とゆめゆりり村平七十人
とえひも矢づりつと物せ取こま
蔭一伏とまこるるとり信忠とま
く

信忠明大寺とあく甲山一りし
とまこ小伏兵の射あつ夫よあ
信忠所わたり命と一なみ誰か射
あれといふ事とま
日十八年駿列の大將冬列の告成
まろく先覚と一安祥の城とおま
攻勢事一とまろく急るり志くれと一
辰列の軍和とえあよとひ
大権現の冬列一かり終ひ職回三良忠郎

ハ尾列小入〜〜〜ハ此れ河三郎と
名〜〜〜西野ヨリ〜〜〜の曰人忠後
氏ヨリ
臨〜〜〜

永祿三年今川義元尾列〜〜と
い〜〜義死と

大権現大高ヨリ名湯ヨリ 還沖乃と記

夜陰〜〜〜雨〜〜事〜〜
志〜〜〜諸軍乃とみ〜〜忠後一人
乃と家乃〜〜下知〜〜乃〜〜一騎

しら〜〜寸み乃名湯〜〜法をす

是ヨリわささ大座友五郎と〜〜

武者修乃と〜〜新前ヨリ来り〜

我名字と乃〜〜〜忠後なる也

名家庵も〜〜忠後と許容

寸友五郎〜〜名字と接〜〜

と〜〜とみ〜〜と〜〜安祥と攻〜

乃〜〜〜詔書ヨリ〜〜城ヨリ

そ〜〜ひ死す

元和五年一月

名酒院殿

將軍家と評礼す

寛永五年十一月沙小姓組より

同七年四月黒書院中奥より

同年八月朔日萩回より

同九日九回より

同年九月沙目水敷より

同八年正月沙配膳乃後より

同年二月川越乃沙鷹狩より

同九年四月日光沙社より

同十年三月宅屋より

同年八月沙馬と評領より

同年十一月沙入浴乃侍より

同年九月日光沙社より

同年十一月沙地より

同十二年十二月沙下より

同十二年十二月沙下より

同十二年四月日光 御社系の沙汰
去りし御つゝ

同年六月 作しりて御二凡小
を約と

同十五年 御社系と行はせ
同十七年 駿府よりしき御城番
と行はせ

同十九年 四月日光 御社系より行はせ

忠貞 まこと

加賀守が祖 子孫ありし御社系
冊よみし御

忠久 まこと

弥三郎 之良右衛門尉
同又十三年 冬列三木城と攻め
と御城と家と我死と

忠政 まこと

弥三郎 之良右衛門尉

トッ 八郎 忠後 子なり 叔父 忠久
三木乃城 了 とい くら び 死す 其
少 廣忠 郷の 命と 遂て 忠治と 継
永禄 三年

大指 現 尾列 當掛 のと 色 了 沙出
陣 のと 紀伊 堺の 軍兵 發 あり 事
いひ ころ 志

大指 現 足 輕 と ころ くれ と 支 一 ぬ
軍 了 入 所 一 終 了 事 あり 也

款 あり と ころ あり 發 あり 事 あり 也
了 忠 改 殿 と あり して こと 少 あり 也
引 志 あり け した 微 志 あり 事 あり 也
同 六年 冬 列 本 教 寺 門 徒 一 揆 と 在
こ 寸 あり 了 とい 忠 勝 の 居 所 と
軍 了 一 忠 改 一 了 一 守
大指 現 水 野 下 燈 台 伝 え と あり 事 あり 也
名 あり 和 田 一 あり 事 あり 也
凶 徒 あり 事 あり 也

大権現 徳兵衛 命 してその位を

拒く攻く海軍忠政業内者となりて

大 一 志れとや少れ

大権現 沖てつ 徳とくら浪切主税

といふものと二徳 けきく海軍志

やいづも浪切後馬よ業よありとく

のれきりぬげと記る川新九郎を記

友六郎たりし死と忠政志とわう

ありといふも款と討事 収多ふを

ありとも干女いまごや海す

味方おも海軍志とくありの多

けゆ一 忠政和時乃事と謀

大権現 一 志と一 志と海つる是小

よ中く凶徒とく 平治す

大権現 志れと感 一 志海の食邑三

十費とき海にれ

元龜元年 江列 姉川 合戦の志

款兵すみきつる忠政相接て志に

雌雄と次一志とありし事分り

といへども所井小款の首と成る

天正二年を列乾よといひ味

引志わきくと此款共ういふ

とといきと款忠改る海りく款を

討志とありし事

同十年後列久徳の沖城代とあり

同十八年六十三歳あり死を 法名

元

某

基十郎

永禄十一年を列堀川の合戦

といひし事ありし城とありし事あり

あつて死す年十六

忠時

合志清尉

忠重

三良古東門尉

大権現

名徳院殿了了之入りて御つれ

元和九年六十三歳少て死す

法名玄如

忠安

三良古東門尉

安長十九年一月一巻

大権現了了之入りて御つれ

忠守

久六郎

了了十四年十八歳少

大権現了了之入りて御つれ

同十八年小田原陣与りて奥列

陣乃侍奉と云

安長五年小田原陣了了侍奉

同十一月一死す歳軍十二

忠重

久六郎

大指現

名徳院殿了了了了了了了了

大坂為度の沖陣了了了了了了

忠吉

養左衛門尉

名徳院殿了了了了了了了了

沖陣了了了了了了

忠於

地十郎

將軍家了了了了了了了了

忠元

九良右衛尉

天正十五年十七歳了了了了

大指現と評礼す

同十八年小田原陣了とてり了ん 伝承く以ん

受長也年すけなが 国原涉陣乃涉伝くにがは一

~~~~~  
~~~~~

大坂多涉陣乃之伝承す

忠次ちんじ

友右衛門尉

忠勝ちんたつ

新八郎 忠勝右衛門尉

天文十一年あまの 信海寺の 長老の 官に 命を 合し 川

義元よしのぶ 了り 一つ から 一つ 安祥やすむら と 世に 傳は 時

清繩きよなは の 合し 義元 一つ 忠勝ちんたつ 絶つ と 始り じ

同十七年どうしちねん 冬ふゆ 列り 山中やまなか の 城を せし 河

味あじ の 牧軍ぼくぐん と 忠勝ちんたつ 告を 為し 了り 相あひま

支款しけう 共に 高たか 勢せう 了り 一つ 一つ 一つ 固かた 了り

あら 一つ 一つ の 誰たれ 一つ や 忠勝ちんたつ 一つ 一つ 一つ 一つ 一つ

あふまゝ大久保一家あはれにありて
大将様ははあはれとてあはれくうらみよ
とて二夫とてあはれその夫も忠勝に
あはれといへども痛もあはれすあはれ
石川新九郎一門のあはれを引ひく
とてあはれ山のあはれあはれいとも
あはれよあはれくあはれ軍敗れ
弘治元年辰列蟹に合戦し忠勝
あはれ小叔父忠貞嫡男忠世次男忠佐

河野忠勝一忠勝忠政あはれ一
八尾忠勝一父子とも一七人
あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
同二年辰列の軍あはれ
新八郎あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
早川あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

彼と討あにひく柴田を公馳く
忠務と突河教忠改すみきこり
柴田を射れ柴田を討つてその
陣ふりんとす大久保忠成と處て
柴田と銀
永禄三年刈屋合戦しつる利と
しつる忠勝をひつる忠世を
八人にもに徳とあせ款と討敵退く
城しつる

同六年本影と門徒蠢起の河忠勝が
居所とつる軍家とつる
下戸の門の親族朋友をひよ忠勝の
子刀二十騎彼を百騎をわすれ今
いり翌年正月しつる忠勝を
しつる日長軍功とつる首級
と得事わけしつる向あす
弟忠政ありしつるなりて
しつる和平

安長六年小死寸七十八歳

法名澁源

忠改

叔父忠久の家督を継ぐ

忠名

四郎右衛門尉 生玉登河

大指現了り行へりて戸つち百五十貫れ

領地とす海

天正三年幸列二侯乃破と攻不

大指現されと大久保七郎右衛門尉忠世

忠世と忠名は兄弟なり

忠世は徹令了りて

忠世了りて

元和三年七月朔日了りて死す

八十二 法名日秀

正次

三助 生國回前

大久保相模守忠隣

安長十一年一月二十七日死す
四十二歳 法名日教

正重

次郎右衛門尉 生玉相摸

寛永四年二月

將軍家と拜礼す

忠豊

長六郎

永禄三年辰列石原乃合戦了

首級とえり

同年之列川屋合戦乃と記首級

と為り

同六年不形寺門徒一揆乃と記十月

と記翌年正月了りしり也と記

度軍功あり

同七年冬河津沖合戦のり

と記とあり也と記

同年片坂合戦了言若す

同十二年遠列天王山よとひく

款と討

元龜元年六月二十八日江列埴川

小とひく首級とえりし事

同三年十二月二十二日遠列三方原

合戦のち款と討

享和三年十一月二十一日遠列長篠小

とひく言若す

同年遠列諏訪原合戦了言ひて

純化のち首級とえりし事

同九年遠列言天神了言ひく

首級とえりし事

同十年甲列新府合戦了言若

同十二年四月辰列岩崎よをひく

首級とえりし事先陣柳原

武部大輔康政が事了言あけしよ

大権現の命とひく言あけしよ康政了

属寸

同十四年三月八日軍十四歳少く
死可 法名淨泰

忠
批

長六郎

右子允

元和元年大坂沖陣のとき
柳原重江もかゝりて五月七日
首級と始

同二年

名徳院殿の教令了り

安友對馬守了り属と

寛永八年九月十三日五十八歳了り

了りて死に 法名日惠

忠
尚

六右衛門尉

寛永十六年何れ

名徳院殿と洋礼と筑地と終り

四年 作しりしるて 沙劬
定奉りとりれ

大坂あ度乃沙科は井と主斗の既

正統が継し居しては信守天王志

口しりしくく首級とえしり

沙海陣の後は死せとく久し孫は

寛永七年九月二十一日小死す
五十一歳

忠以

信之助 六右衛門尉

寛永七年七歳しりり

名瀬院殿と評礼し忠尚が旧儀を

寺内り也

將軍家しりりりりりりりり

忠正

龜之助 長六郎

元和三年

將軍家より行々々々々々々々

寛永十年銘此と云ふり

同十八年八月十二日 ありせり

~~~~~

竹千代君乃沙傳と云ふり布衣と云

ふれ事と云ふり

忠利

合派 子右衛門尉

安永十七年

寛永四年

將軍家と評礼す

同五年沙小性組に入番とつとむ

同十年采地とたまふ

同黒書院中奥より作可

同十五より沙小納戸の役とつとむ

某

龜之助

寛永十八年

將軍家と拜礼し

忠益

子一節 助左衛門尉

大指現<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>行<sup>レ</sup>久<sup>ク</sup>キ<sup>キ</sup>々々<sup>ク</sup>向<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>れ

永禄六年<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>致<sup>ス</sup>ち<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>一<sup>レ</sup>揆<sup>レ</sup>乃<sup>ト</sup>も<sup>キ</sup>

兄忠猪<sup>ノ</sup>一<sup>レ</sup>志<sup>ス</sup>く<sup>レ</sup>び<sup>ニ</sup>軍忠<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>抽<sup>ク</sup>

庶<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>可<sup>ク</sup>し<sup>テ</sup>家

同一揆<sup>ノ</sup>乃<sup>ト</sup>も<sup>キ</sup>忠益<sup>ノ</sup>朋友<sup>ト</sup>純<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>可<sup>ク</sup>

款<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>突<sup>ク</sup>く<sup>レ</sup>これ<sup>ヲ</sup>と<sup>レ</sup>珍<sup>シ</sup>れ<sup>ル</sup>よ<sup>リ</sup>り<sup>テ</sup>款<sup>ハ</sup>

純<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>海<sup>ノ</sup>間<sup>ノ</sup>志<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>い<sup>ハ</sup>と<sup>レ</sup>色

あ<sup>ラ</sup>す<sup>ル</sup>あ<sup>ら</sup>よ<sup>し</sup>ひ<sup>く</sup>忠益<sup>ノ</sup>款<sup>陣</sup>よ

入<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>純<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>び<sup>と</sup>也<sup>ノ</sup>款<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>所<sup>ニ</sup>き<sup>か</sup>せ

そ<sup>ノ</sup>首<sup>ヲ</sup>と<sup>レ</sup>え<sup>し</sup>ら

元龜元年<sup>ニ</sup>江<sup>ノ</sup>列<sup>ノ</sup>婦<sup>ノ</sup>川<sup>ノ</sup>合<sup>ノ</sup>戦<sup>ヲ</sup>

歎息と討捕

同三年冬列三方原合戦に侍奉

天正三年冬列長原合戦に柵際小

としく歎息と討とれ

同八年冬列多尾と引去りてく

とき忠益

大指現了りてくひくくゆつれ

同九年冬列高天祚乃城と攻れ

これにゆゑ我首級と治成をかくし家

同十二年尾列長久の合戦に水野

右衛門地小林又六喜山若重の母友討ち

与と一了りてあつて歎息とくち捕

大指現乃釣命くくくく沙使島并

沙歩折りらとてれ

元和三年七十一歳ありて死す

法石日峰

忠辰

子一節

少年より

台徳院殿より

寛文五年奥列陣の刻字部交

より出たり本曾路と河を海に

河上流のとき流舟と行を命

同十九年の去久保相模守と行を

トモ河上流のとき流舟と行を命

同年の冬大坂陣ありて

忠辰はそくに彼地よととひきき

陣寸

翌年大坂陣の河松平下總と清屋

より一居一上月六日大和口

小より一居一甲士とら捕首

翌日も亦茶磨山より一居一

首とえ



涉前（一）と云く涉幼氣（二）に涉必  
 然（三）と祈（四）と云く西（五）と云く  
 所（六）と云く涉無免（七）と云く  
 寛永三年涉步行頭（八）と云く  
 同四年布衣（九）と云く事（十）と云く  
 同十年涉使（十一）と云く  
 同十五年（十二）と云く十六歳（十三）と云く死す  
 法名（十四）日全

忠尚

幼（一）と云く  
 幼（二）と云く  
 台徳院殿（三）と云く  
 寛永十九年（四）兄（五）と云く  
 涉幼氣（六）と云く  
 大坂（七）と云く  
 大坂（八）と云く  
 大坂（九）と云く  
 大坂（十）と云く  
 大坂（十一）と云く  
 大坂（十二）と云く  
 大坂（十三）と云く  
 大坂（十四）と云く  
 大坂（十五）と云く  
 大坂（十六）と云く  
 大坂（十七）と云く  
 大坂（十八）と云く  
 大坂（十九）と云く  
 大坂（二十）と云く  
 大坂（二十一）と云く  
 大坂（二十二）と云く  
 大坂（二十三）と云く  
 大坂（二十四）と云く  
 大坂（二十五）と云く  
 大坂（二十六）と云く  
 大坂（二十七）と云く  
 大坂（二十八）と云く  
 大坂（二十九）と云く  
 大坂（三十）と云く  
 大坂（三十一）と云く  
 大坂（三十二）と云く  
 大坂（三十三）と云く  
 大坂（三十四）と云く  
 大坂（三十五）と云く  
 大坂（三十六）と云く  
 大坂（三十七）と云く  
 大坂（三十八）と云く  
 大坂（三十九）と云く  
 大坂（四十）と云く  
 大坂（四十一）と云く  
 大坂（四十二）と云く  
 大坂（四十三）と云く  
 大坂（四十四）と云く  
 大坂（四十五）と云く  
 大坂（四十六）と云く  
 大坂（四十七）と云く  
 大坂（四十八）と云く  
 大坂（四十九）と云く  
 大坂（五十）と云く  
 大坂（五十一）と云く  
 大坂（五十二）と云く  
 大坂（五十三）と云く  
 大坂（五十四）と云く  
 大坂（五十五）と云く  
 大坂（五十六）と云く  
 大坂（五十七）と云く  
 大坂（五十八）と云く  
 大坂（五十九）と云く  
 大坂（六十）と云く  
 大坂（六十一）と云く  
 大坂（六十二）と云く  
 大坂（六十三）と云く  
 大坂（六十四）と云く  
 大坂（六十五）と云く  
 大坂（六十六）と云く  
 大坂（六十七）と云く  
 大坂（六十八）と云く  
 大坂（六十九）と云く  
 大坂（七十）と云く  
 大坂（七十一）と云く  
 大坂（七十二）と云く  
 大坂（七十三）と云く  
 大坂（七十四）と云く  
 大坂（七十五）と云く  
 大坂（七十六）と云く  
 大坂（七十七）と云く  
 大坂（七十八）と云く  
 大坂（七十九）と云く  
 大坂（八十）と云く  
 大坂（八十一）と云く  
 大坂（八十二）と云く  
 大坂（八十三）と云く  
 大坂（八十四）と云く  
 大坂（八十五）と云く  
 大坂（八十六）と云く  
 大坂（八十七）と云く  
 大坂（八十八）と云く  
 大坂（八十九）と云く  
 大坂（九十）と云く  
 大坂（九十一）と云く  
 大坂（九十二）と云く  
 大坂（九十三）と云く  
 大坂（九十四）と云く  
 大坂（九十五）と云く  
 大坂（九十六）と云く  
 大坂（九十七）と云く  
 大坂（九十八）と云く  
 大坂（九十九）と云く  
 大坂（一百）と云く

くら揚聖日し海茶磨山  
ふひく甲首とえふのふん底と  
かく少於沙西陣乃くら江戸  
かひく沖勁氣とゆりきせ給ふ  
寛永元年

名徳院殿乃嚴命よるく後河  
大納言忠長卿一くおり乃  
歌とふれくのくら進物書乃以中  
かいら布衣と急す

忠隆

八岳東村 助左衛門尉

寛永十年

將軍家と洋礼す

同十一年 沙小姓組よ入番と勤

忠重

右軍門八

寛永十三年



將軍家と評禮と

同十七年三月沙書院番と評禮と

忠臣

檀十郎 荒之助とわくくめ海

忘存忠の尉と号す 生公参河

元龜元年六月

大指現婦川一沙か陣乃内忠臣十

八歳小して修身すあ軍海ト

リわくくめと記忠臣款陣より款の

能をうむひ甲若一人とららるけ日

くくひ羅くろく

大指現れ名命一いもく忠臣ハト

めく我場一のそみづくれこれの

くくき奇異れ我功といふと

沙感乃あまわよ令乃園麻を給り

よふら若物と寸と大指十郎と

荒之助とわくくめたす

同三年十月中旬甲列乃軍一兵



大権現了り侍可

同九年高天神了り了るひを

まつわて軍忠とらげまは

同十年甲列新府了りなひ

小條氏忠と涉合戦乃れ款出を

うらと執

同十二年尾列涉陣乃河石川

伯耆了り一属く小牧小あ

涉渡として松平若田部とたに

去久平小いし合戦すでりん

御殿に忠忠純とりく森武義忠

長一が長士一人と突ふせ首とた

ま池田勝入が若黒纒乃侍一人と

うらと執

同十八年小田原陣乃と執

大権現了り了るひを

夢長也年

名瀬院殿に御よまわしり涉渡

とあり〜奥列陣了〜  
須列美田陣了〜  
海つ致

同六年旧役とあり〜  
十人とあり〜

大坂あ度乃沖陣了〜

元和四年十二月布衣と恙す致事

とゆらさ致

同五年駿列田中城乃定番と

所心

同八年十二月田中了〜

死七十二歳 法名日宗

忠賞

荒之助 武列江戶了〜

安七十五歳了〜

名徳院殿了〜

同十七年根藉人あり世了〜

あはれとてしるすものごとく珠城せんとして  
とら河彼無後二人に江戸山打の一番  
町よとひく小屋一にむきこころれ  
多々成とてくは是とがこむ忠當  
小屋よとてく一人を討捕  
おれときこ小笠原角虎の討あり  
しるく走いり忠當一くりり  
海一人を討は河忠當とてく  
名徳院殿上使とて山口に守と

き海より沖威のひとてけた海  
とれ

同十九年大坂陣一に供奉  
翌年五陣のとき五月七日至  
送色一とてく款名と討  
とれ

寛永元年正月二十四日  
一と死す法名日竟

忠景

長三郎

元和二年十二月十五日十五歳

山一

將軍家了了行々々々々々々々

忠真

平四郎

元和九年十二月十九日十六歳

了了

將軍家了了了了了了了了

忠辰

甚之助

武列江了了了了了了

寛永元年九歳了了了了了了

名徳後殿と評礼と

將軍家忠當が所統子止百石の内子石

を忠辰了了了了了了了了了了了了

忠昌了了了了了了了了了了了了

同九年 沙書院番と行はせ

同十年 沙小姓組と行はせ

番と行はせ

同年 沙院とくりし海りり子二百

名と飲可

忠昌

忠昌

駿列 田中よ生乳

寛永元年 七歳少して忠當の領地

乃月五百名と行はせ

同十一年 十五歳少していんため

為軍家と行はせ

同十二年 沙小姓組と列

番と行はせ

同十三年 沙院と行はせ 中奥黒

書院と行はせ

忠之

平十郎

生國同家

忠宗

子右衛門尉

康忠

新八郎

子右衛門尉

永祿六年の冬

大指現冬列上和留

名加るとよ

せさせし海ふと見康忠よ涉諱の字  
と信りらそのへ涉傍して涉養育

せさを流ふをきとふわふれよよらとく

大指現一しとさぐひきくゆゆわく

是濟小いされ

元龜元年江列姉川合戦のとき

款去涉讓下すみらけく康忠

大指現乃中下知とかりりく相き

い首二級とゆら

天正十二年尾列長久の戦場

とひく純化のせ首とゆら







將軍家と有礼す

康村

新八郎

安永五年

名徳院殿了了洋福す

同年奥列陣アウターをカひレ了了涉入海ト也

此後アとシて

同十六年 釣命ツクノミとシて

大妻オホメのツ継ツ可クらシて

元和元年 大坂陣オオサカのツ信シ奉ホウとシて

五月七日ツにシてシて

しらすらす

寛永三年 湯弓ユウキウ可クらシて

是レすレ事トをシて

同九年 六月ニにシて

日ヒ愈ユ

忠重

次郎八

康任

新八郎

武列江戶

寛永九年

將軍家と相礼す

忠村

三之助

生玉同前

寛永九年

將軍家と相礼す

忠知

平六郎

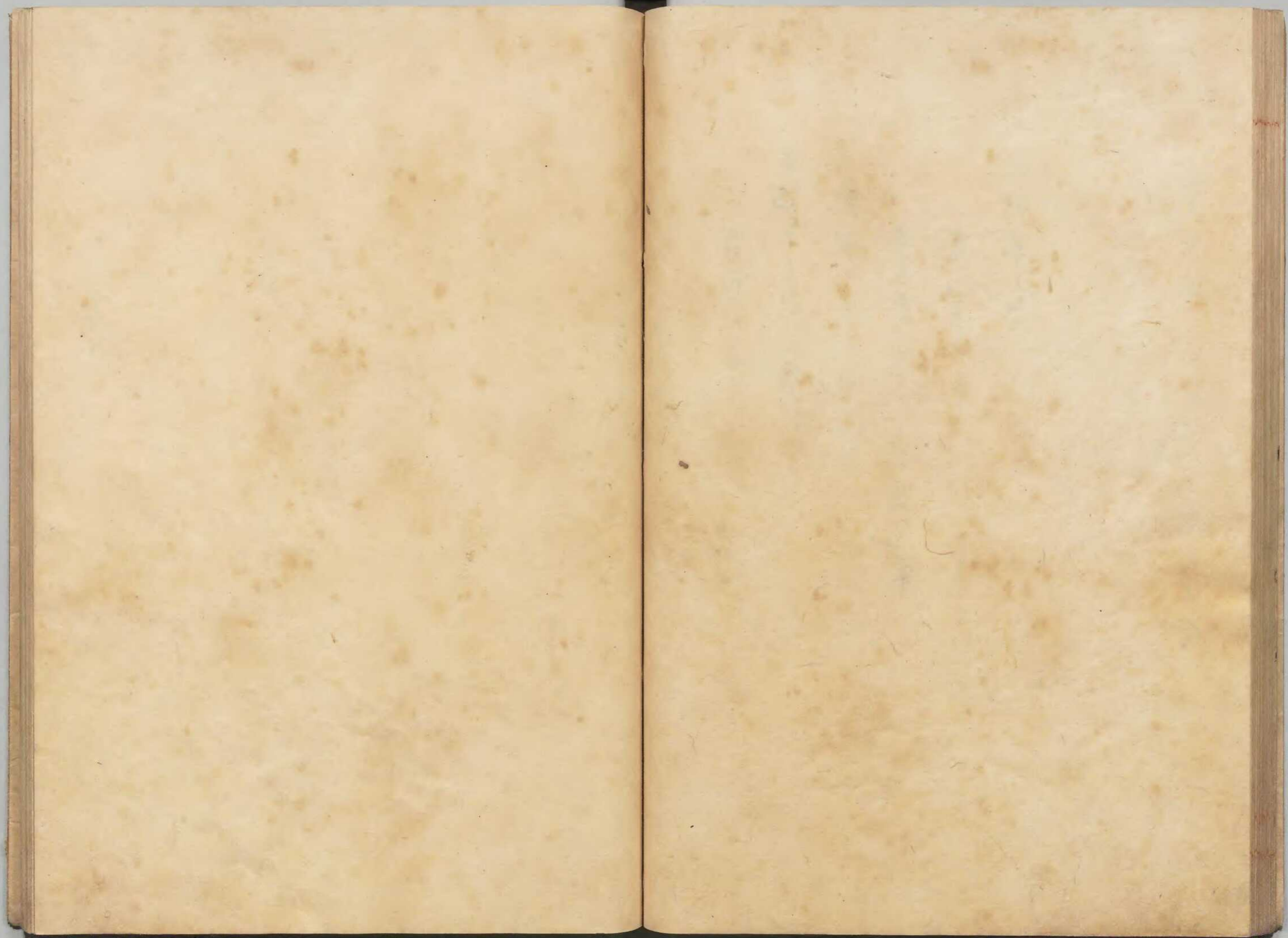
生國同前

寛永十六年

將軍家と相礼す

家紋

上藤丸の内大文字



大久保おおくぼ

正次まさつぐ

七郎しちらう

七良右衛門尉しちらうゑもんゑい

生田巻河なまくだまきがわ

先祖せんぞより伝つたへたたるることこと了り了り

正名まさな

九良右衛門尉くらゑもんゑい

生田同前なまくだどうぜん

廣忠郷

東照大権現了了了了了了了了了了了了

正伝よこゆ

法皇<sup>の</sup>御厨 生國<sup>の</sup>同方

大権現

名徳院殿

將軍家了了了了了了了了了了了了

正忠よこ

幼<sup>ん</sup>名<sup>の</sup>御厨 生國<sup>の</sup>同方

大権現

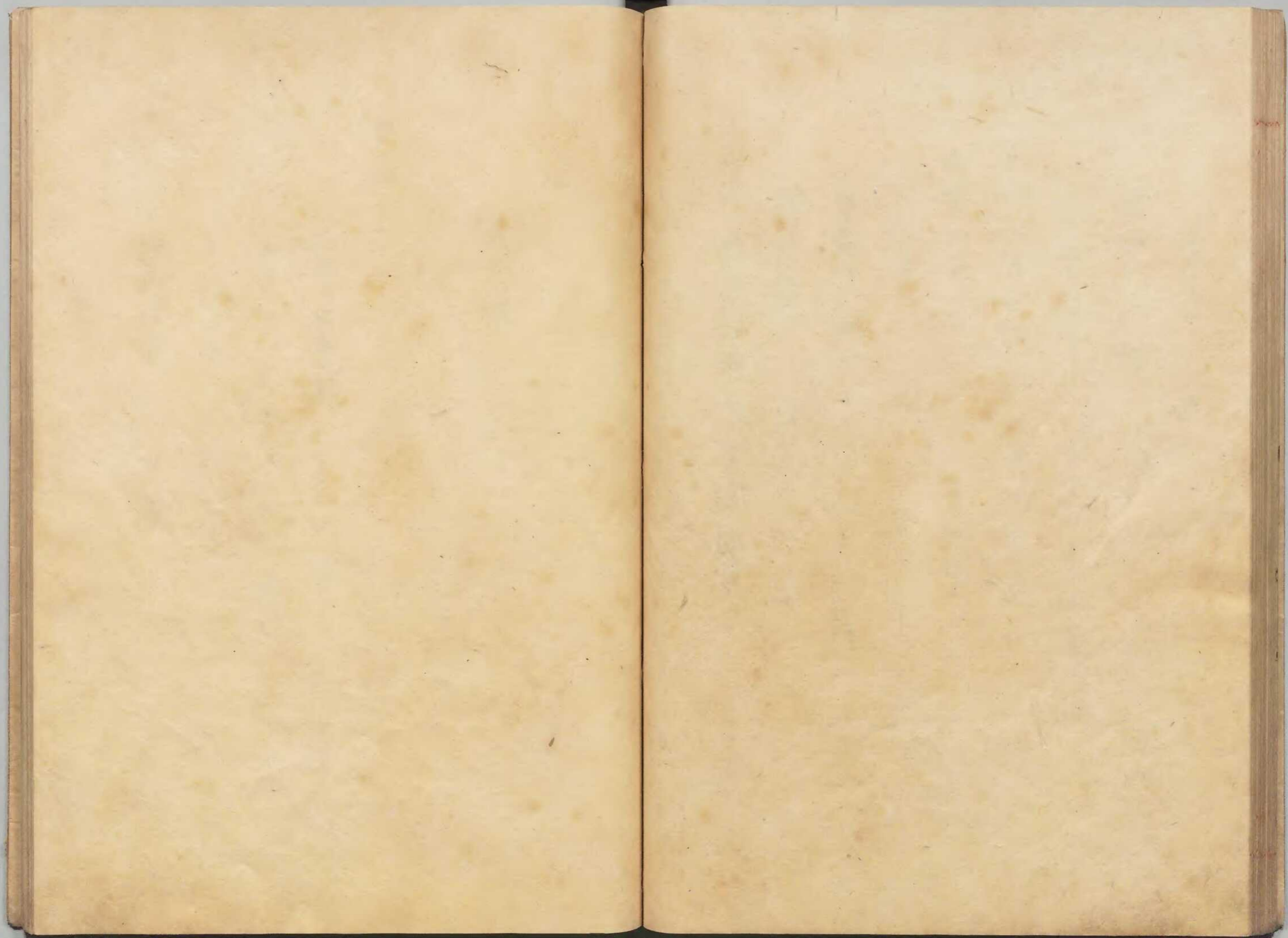
名徳院殿了了了了了了了了了了了了

正重よこ

七名<sup>の</sup>御厨 生國<sup>の</sup>同方

將軍家了了了了了了了了了了了了

家紋 上藤かみとう





大久保 おおくぼ

● 光正 みつただ

六郎右衛門尉 生玉甲斐 いけ 法名連成 えん

いしめハ茂田伝玄同勝頼了了了

そのころ

東照大権現了了了了了了了了了了了

正次

長谷部尉

生玉回あ

二天八位玄の家人秋山志左衛門

法石汝舟

か

子なり先正の家督とつれ

大指現

台徳院殿

法石了徳

法受院と号す

正栄

友之郎

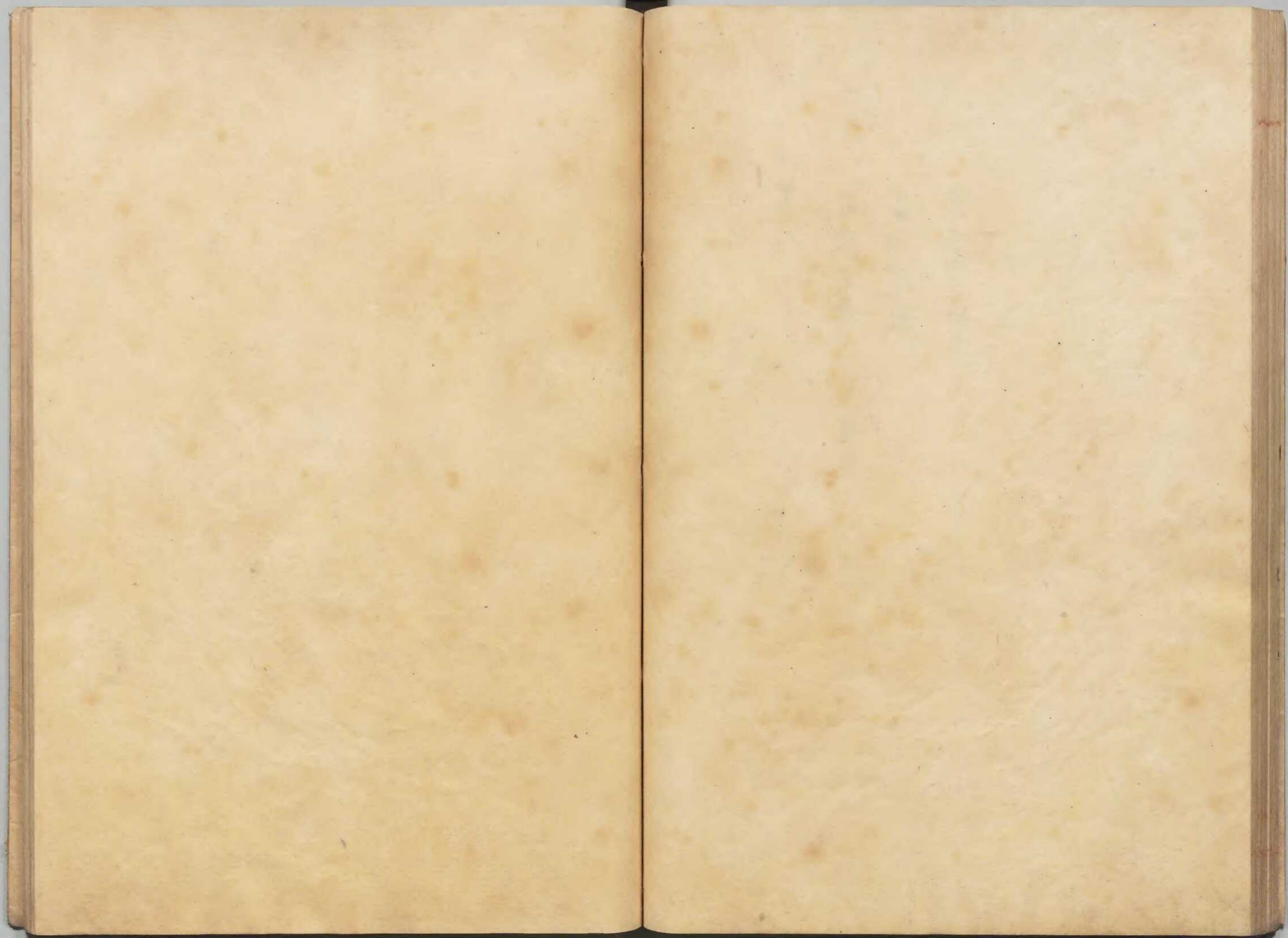
生玉相模

台徳院殿

將軍家

家紋

丸の内よ大の字



宇都野

ととハ宇都交と号は

はくへきく道昌うれ子辰あど

くけえへ冬列松平よいしり

光主しつてあれどわけが

累世浄苗家よけえへそまつら

辰あひとあわくハ辰あつあ

号すよふらら正務が先祖か

正勝

京三郎

冬河和由よ生れ

廣忠郷よりびり

東照大権現よりけりくゆつら

冬列御前寺の徒一撥のときき是男

正成あひとをりし和由よりありく

慶下より居す

正十三年十二月十七日死す

歳七十九

正成

与之郎

生國回り

廣忠郷よりびり

大権現よりけりくゆつら

三方原長藤等れ合戦よ生れ

安永十四年六月十九日死す歳

六十二

法名為涼

正信

北右衛門尉

生國同前

大権現

名徳院殿

將軍家一行久幸々海上系

正長

九段右衛門尉

大権現

正氏

名徳院殿

將軍家一歴仕一々海上系

信之丞

生國同前

元和七年

名徳院殿一一々海上系

寛永十一年一一々海上系

將軍家一一々海上系

家紋 いこのもん  
幕紋 まくのもん

三頭左巴 さんずうさ  
鳥居井垣 とりいゐ

正重

墨本

家傳よりいづく下野玉垣若乃店より  
恒す宇都宮芳賀乃末流墨本  
信濃守留言の後胤あり

円通殿 下野垣若乃店より

天文二年 宇都宮那波と合我の事



正重宇都交しげうつとま一属しゆ一那次なつ乃領内  
佐久山さくやま乃城のしろ一しげ一我死わがしす歳とし三十  
二 比石道隆ひしきみちたか

正親まさちか

讃波守さなみもり 生利なり同家

天正十二年八月廿日小田原小條おだわらこじょうの  
宇都交つとまと攻せれしとき正親宇都交まさちか一  
属しゆ一しげ一正親まさちか子照富てるとみ正富まさとみわひこも一

皆川みながわ一しげ一しげ一水條みづじょうししげ一しげ一照富てるとみ  
正富まさとみししげ一しげ一

同十五年正親まさちか関せき東ひがし一しげ一上洛じやうらくすしげ一  
ときしげ一長秀ながひで名な筑紫ちくし一しげ一瑞陣みづじんわ

正親まさちか持列もちりゅう兵庫へいこ一しげ一しげ一秀吉ひでよし  
一しげ一謁えつししげ一秀吉ひでよし塩釜しほがま庄ぢやうの内うちよしげ一しげ一  
三千さんぜん二百にひゃく六十そそ石いしの食邑じきやくとしげ一

同十八年おとやへん一しげ一孫まご義保よしかへとしげ一しげ一  
同年おとやへん十二月じふにがつ十日じふにち家督けとくとしげ一しげ一

義保十五歳下り

享長七年八月九日死と七十五歳

法石梅屋

女子

塩谷日向守義通の妻義通を海中守

義次が子あり

照富

九郎

小田原守都守と合我のとき皆川小

崎ひく二十一歳あり討死

法石全鑑 道號鏡山

正富

法石

照富と同居よひく十九歳あり

我死と 法石全鑑 道号月山

久太郎 文四少輔 生國同好

實は壇谷日向守義通の嫡子あり正親の  
養子となりし十五歳ありしとき義保より  
詢す

文長三年大坂よりを起し

東照大権現と稱しし海つれこりと

き義保二十三歳

同四年

名徳院殿より拜謁す

同五年上杉景勝叛逆のとき

大権現これと征伐のとき下野の國小

山へ湧出馬のとき義保才伴若菜保真

と具しし海つれ

大権現より謁しし海つれこりと

かきつけりしも無貴とし海つれ

釣命ありし皆川山城守より海つれ

大田原の城番成しし義保の子成

人質として江戸に献せ

つら佐竹秋田へ玉くへりともき定城富是  
の番成匠を

相馬長門守沖動氣を叫ぶるれとき

義保岩城富是よりともくに牛越

ともひき番をけし丁をよつち

御ゆりこれありく御取のゆへ牛越

を志つちしてまゝにすぐて江戸

してはけり下野の玉のつら

小貫一とひく五百石の銀紙とく

くき海

里見安房守綱目りともき内友なる物

組よけくるる房列の番成匠を

大坂西陣陣よ一本由佐渡ちかくみ

届一信事とつと命落城乃ちま

次那乃番をけしとも落人乃首三十余

級うらともれと献すつら伏見

涉島とけし

家と源公高 沖政易れとよき家とよ  
とよいきききとほとほ

日根野織部正成地を筑紫よかり  
と下野のふと生れ城乃蕃とほ  
と心うめと甲府の沙城とほ  
一年つとほ

保真

想十郎 乃ら伊呂海尉と号れ

清通

健助

義政

日茂助

寛永八年正月十一日十五歳ふ

名徳院殿

將軍家より洋賜す

女子

某

万石 まんきり

家紋

石巴 いしば

墨本

秀作

高橋

生玉下野

七十歳小く死す

法名宗巴

高盛

新長清射

生國同前

とーの及皆川山城さーしんふ西時  
浪人となすれ

高作

幼左衛門尉 生不問お

元和三年十一月

名徳院殿一福一喜のうら

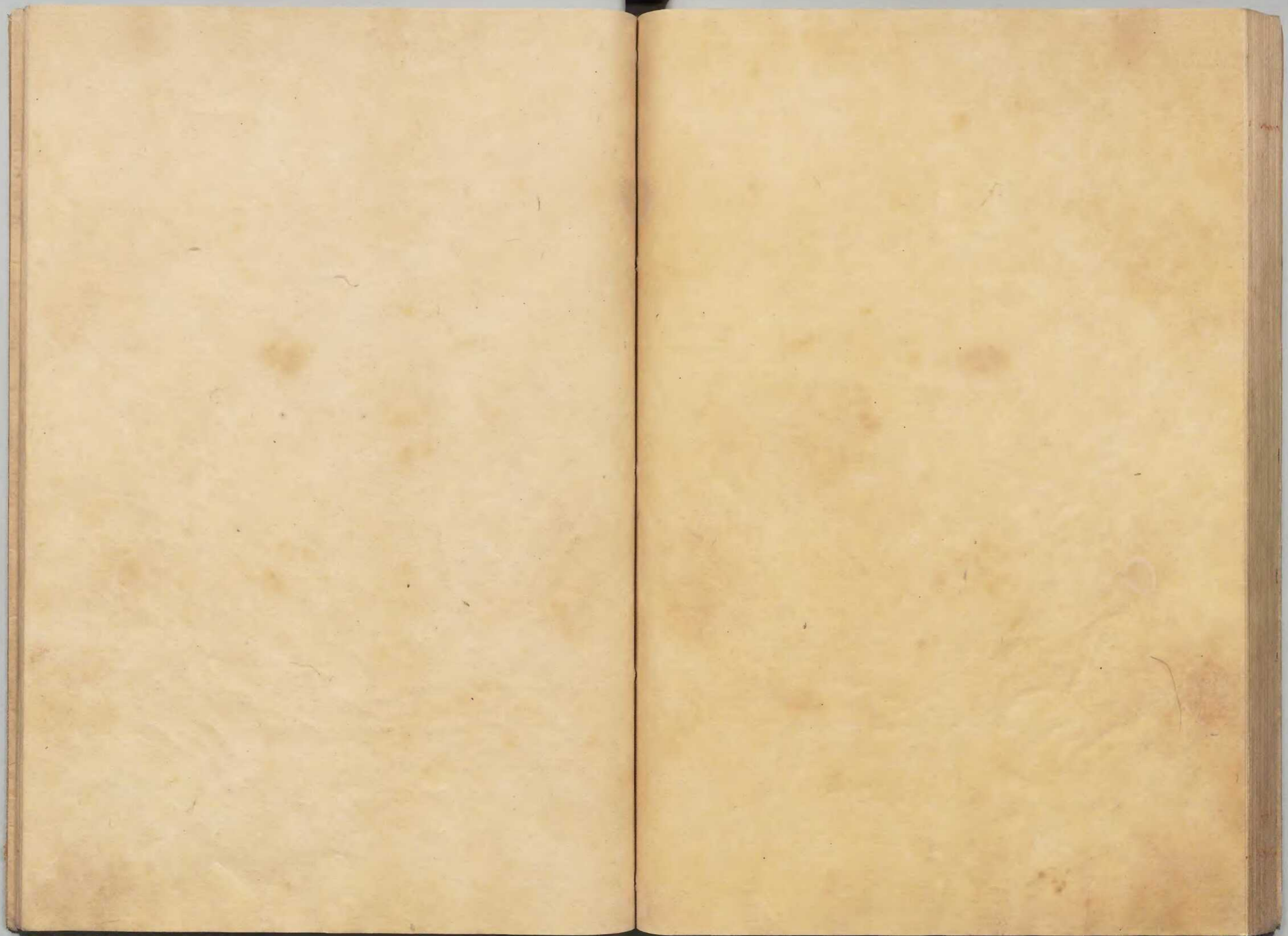
將軍家よけんくまづら稲米とく

く海にれ

家紋

右巴





● 正後

太郎左衛門尉

生玉相模

天正十八年

東照大権現 関东沙入 玉乃と記取福

〜〜海つら大沖番とつと心九十奉

小とひ武列 祢庭村 札領地

小幡

隠居カクレ

法名連光ホトナリ

正次マサツグ

源太郎ゲンタロウ

生國同外ナニクニドウガイ

名徳院殿ナトクインテン

將軍家シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ

つとむ母存大坂ツトモハハシ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ

行ユキとヨリ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ

寛永四年カンエイシ四十六歳シヨウジ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ

正忠マサタカ

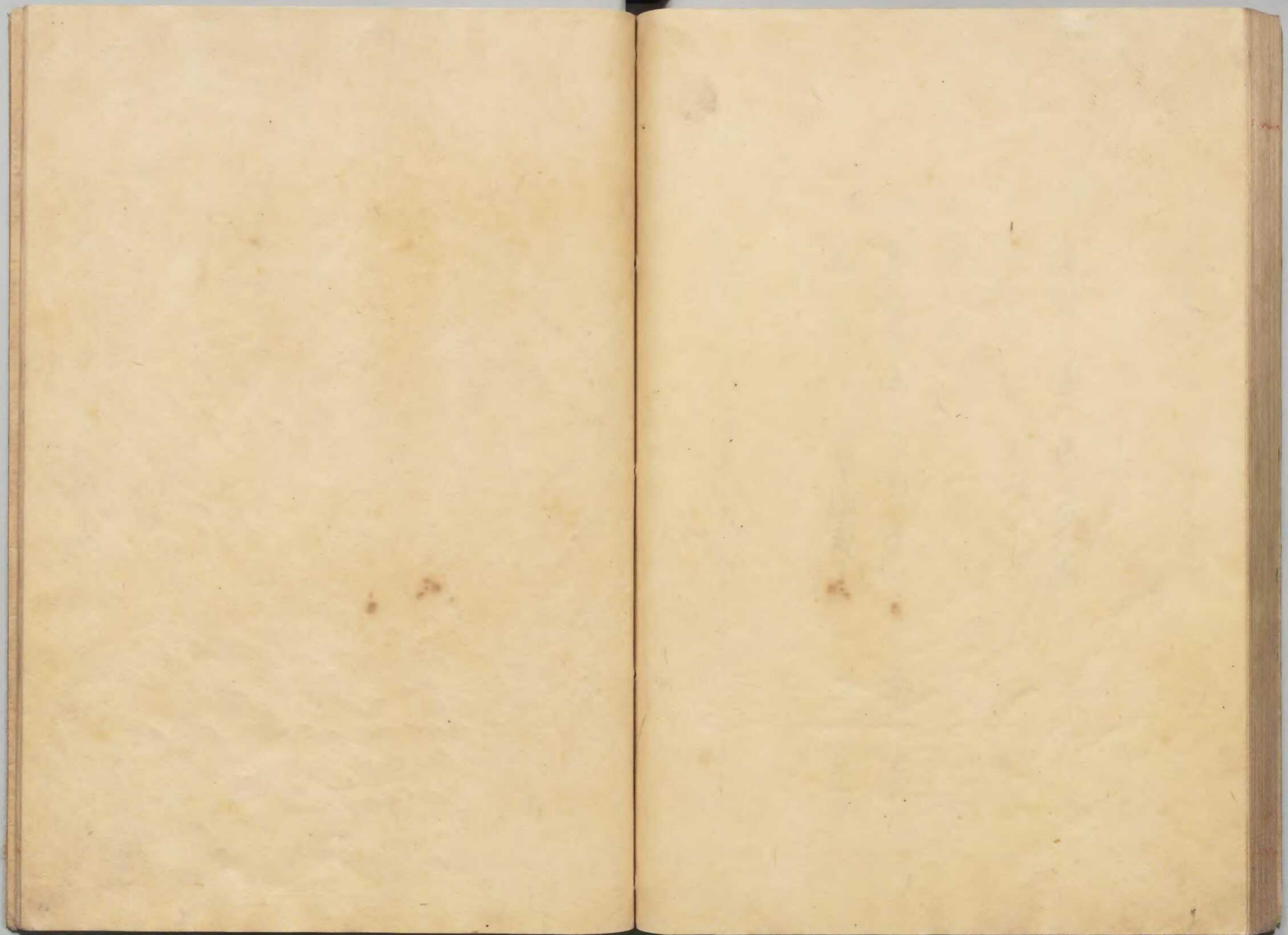
源太郎ゲンタロウ

生國武苑ナニクニブケン

寛永十年カンエイジウ大沙島オホサジマ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ了シラサカ

家紋ケモノ

丸の内マルノウチ根藤ネフジ



某

田中

龍前

武田信玄

政利

新吉清尉

生國甲斐

法石定意

位たゝ玄げん々々〜らびら小こ侍し頼たの〜ら〜ら〜ら

改長かへん

孫まご長ちやう侍し頼たの 生なま不ふ回くわい前ぜん 法ほふ石し道だう書しよ

幼こ少せう〜ら勝かち頼たの〜ら〜ら〜ら〜ら

駿しゆん河が大だい納なつ之の忠ちゆう長ちやう郷かう〜ら〜ら〜ら

台たい徳とく院いん殿でん〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

改重かへし

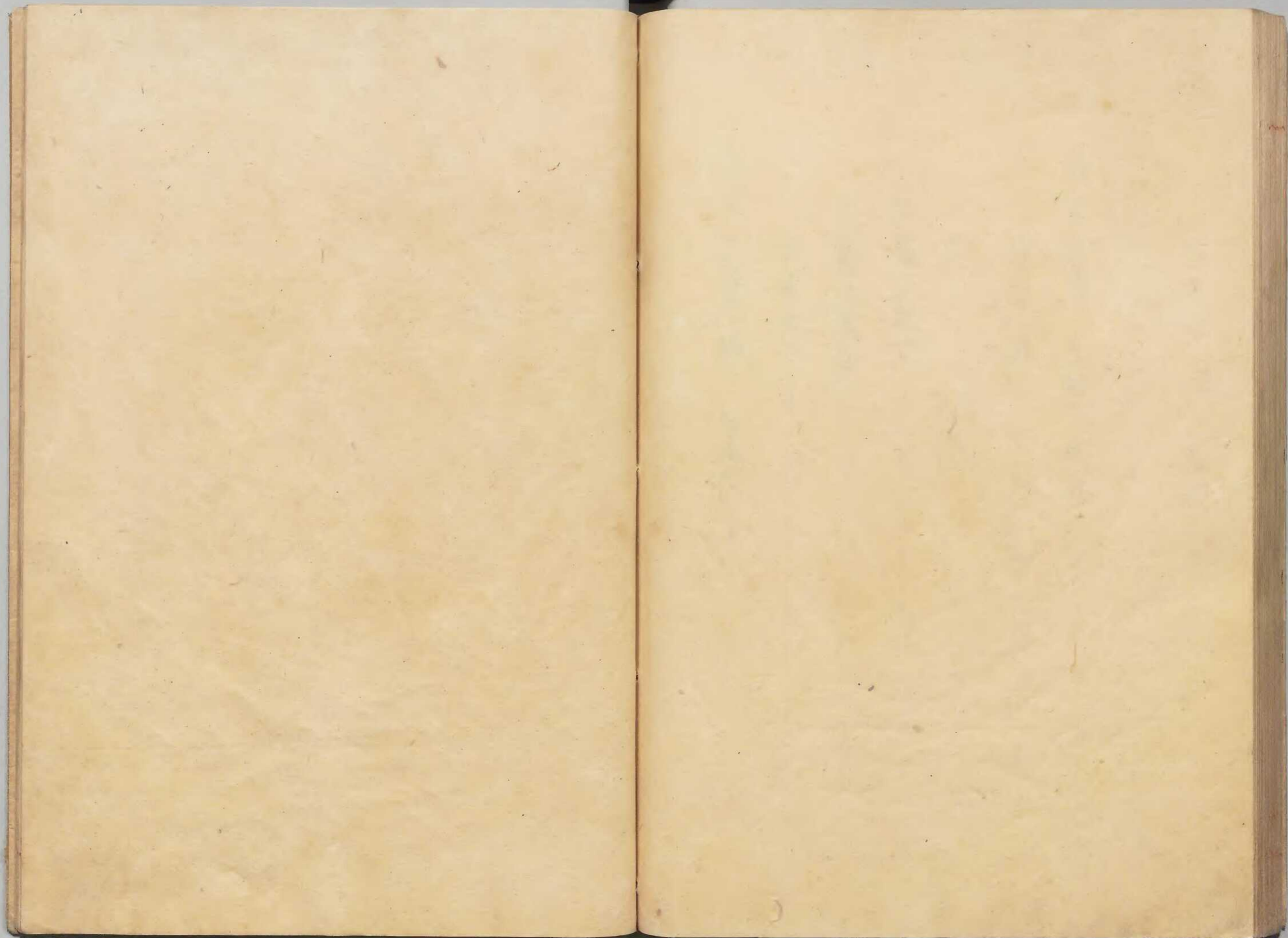
又また忠ちゆう之の尉ゑい 生なま不ふ回くわい前ぜん

忠ちゆう長ちやう郷かう〜ら〜ら〜ら

寛かん永えい九く年ねん〜ら〜ら

将しやう軍ぐん家け〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

家け紋もん 三さん次じのの左さ巴ゑ



初巻 はつまい

道臣十二代

● 泰藤 たいふとう

宇部家右近守監 うべのまゝみえのうぢいん

比呂守常 ひろのしんじょう

新田義貞了了 あたりのよしのりつりつ  
了了 りつりつ 義貞滅亡乃了 よしのりつりつめつじつなるりつりつ

冬列 ふゆりつ 居恒 いこう

家紋 尾巴 おしお  
鳥居 とりい 尾紋 おしもん 与 よ



藤 繼 ふじつぐ

冬列 ふゆり 一 頃 ころ

泰 物 たいぶつ

田原左衛門尉

右監入道 みぎのまねいりだう

法名蓮海 ほうなむすめ

玉 繼 たまつぐ

久太郎

長庫助 ながくらすけ

冬列 ふゆり 一 頃 ころ

國 泰 くにのやすし

新庄左衛門尉

法名蓮裔 ほうなむすめ

冬列 ふゆり 一 頃 ころ

元 繼 もとつぐ

田原左衛門尉

朝臣 あそ 一 頃 ころ

泰元

物是新即位

冬列名良小領す

ととめく物是とりく称号と守

泰弘

久世清尉

冬列名良しひまね

廣忠知よつとゆつね 三列よをひく  
病死

泰正

久世清尉

ととめれ名良久世

乃ら伊豫と号す

童名直千代

ととめ川伯耆守牧正よ属して

東照大権現ししはくきく河内親牧正

ゆへわく冬列とるも豊后赤松乃

旗下しつるといへとも泰國しれ

わいさくしつるしゆり



五十七

法名 全陸 えんりく

國豊 くにゆたか

弥七右衛門 やななえもん

尾張義直邸 おわりけのよしなかと

勝國 かつくに

権左衛門尉 ごんざえもんゑい

童右衛門代 どうえもんしろしろしろ

武列 江戸よ生れ ぶりゅう 江戸よなれ

母 是原頼朝の女 はは ぜんげんのかみめ

名徳院殿 なとくゐん

寛永五年十一月十二日 かんゑいごねんじゅういちがつじふににち 病死年 びやくしねん

三十四 法名 豊平 とよへい

恭直 きよみち

久長兼尉 くながかねゑい 生國同家 なまくにどうけ 母 上よおる はは じよおる

名徳院殿 なとくゐん

將軍家 しやうぐんけ

勝宗 かつむね

八太夫 やちふ 生國同家 なまくにどうけ 母 上よおる はは じよおる

元和三年 げんわごねん

將軍家了了るるるるるる

國考

位上位下 出守 袖乃名八指之席

母ハ山田休心（山田休心）のしり

寛永五年

名徳院殿了了るるるるるる

將軍家小所へへへへへへ

同十九年八月十八日 治了了るるるる

國政

位上位下（位上位下）の叙（叙）出守了了るるるる

七号藩尉 武列（武列）江戸よせれ

母了了るるるる

寛永十七年

將軍家と評（評）をへへへへへへ

國重

主税 母ハ松浦内苑元（松浦内苑元）の女

家紋

三政乃左巴

